

IV 平成28年度 学校経営報告

東京都立羽村特別支援学校長 坂口昇平

1. 今年度の取り組みと自己評価

(1) 教育活動への取り組みと自己評価

本校は若い教員の割合が多く、その授業力向上に向けた研究の充実が重点目標である。公開研究会に向けて、研究方法に工夫を進め、参加者及び講師から高い評価をいただいた。特別支援学校免許の保有率も高水準を示すことができた。外部専門員の活用では、摂食指導の改善、電子黒板の利用など活用など、教員の支援につながる成果を出すことができた。宿泊防災訓練は熊本地震の影響で今年度は実施できなかったが、来年度は実施を計画している。作業学習での地域社会での販売活動、スポーツ活動の大会参加など、学校の外に向けて教育が広がるような活動で、成果を上げることができた。副籍交流では直接交流のケースが増加した。保護者と受け入れ校の理解が一層進んでいると考えられる。

ア 学習指導

研究授業 173 回実施

1 月 26 日公開研究会 全国から 53 名の参加

特支免許保有率 87.9% 取得中合わせて 100%

教材展示会の実施 教員向け 3 回。土曜参観日と学校公開日に実施

教材制作研修 4 回

外部専門家の活用 8 名（心理 2 名、OT 3 名、PT 1 名、ST 1 名、ICT 1 名）

合計 1357 時間

作業学習の販売 ゆとろぎホール、福生西友、モリタウン 社会との接点

イ 生活指導

羽村市安全ネットが本校での避難所を想定した訓練に協力（1 日）

宿泊防災訓練は中止（熊本の影響から）

コーディネーター面談による校内の児童・生徒支援会議 74 名 49%

福生警察主催不審者対応訓練本校職員参加（ゆとろぎホール） TBSにて報道

防災標語コンクールで表彰 中学部 1 名

ウ 進路指導

進路先見学会 保護者向け 10 回実施。（福祉 5、企業 3、国リハ他 2）

生徒引率各学年 1 回

進路研修会 小中高各学部 1 回ずつ 3 回実施

進路便り 5 回中 5 回発行

エ 特別活動・部活動

・部活動 スポーツ系 4 団体、文化系 3 団体

球技部：特体連ソフトボール大会優勝、テニール大会 3 位、

サッカー部：サッカー王大会 II 部優勝、サッカー東京 F I D カップ II 部優勝

マラソン部：青梅マラソン高等部生 18 名参加。22 名の伴走者及び関係者。そのほか多数の沿道応援教員参加。

東大和ロードレース一般の部入賞高等部 1 年生 1 名。

バトミントン部：12 月に大会参加予定

その他：全国障害者スポーツ大会いわて大会

サッカーとソフトボールそれぞれ生徒 1 名ずつ東京選抜に選出され全国優勝し、2 名共東京都の表彰を受けた。

オ 体づくり（食育・健康教育）

- ・歯科衛生士による歯科指導 小 1、小 4、中 1、高 1 全員に実施
- ・養護教諭による肥満指導 小 4 名、中 3 名、高 38 名実施

カ 特別支援教育のセンター的役割

- ・学校開放事業（地域野球 2 団体、サッカークラブ 合計 53 日延べ 2557 名利用）
- ・副籍交流の実施 小中児童生徒 214 名中 112 名実施 昨年比 15 名増
直接交流 49 ケース実施 昨年より 11 ケース増
- ・幼児体験教室 12 回 27 名参加
- ・学校公開 6 月 182 名 10 月 166 名 合計 248 名来校
- ・市域関係機関巡回相談 14 回（幼保小）
- ・地域関係機関研修講師 13 回（小ほか）
- ・本人口座 全 3 回実施 32 名参加
- ・ボランティア養成講座 4 回実施 8 名参加

キ 学校経営・組織体制

- ・職員会議で必ず管理職から組織運営、サービスのことを取り上げて周知。
- ・サービス事故 個人情報に係る処分、交通事故。
- ・施設課題 サギの大量飛来によるプール指導の中断。大雨による浸水被害。
- ・学校評価保護者アンケート回収率

全体 69%（小 68.7、中 90.4、高 1 60.9、高 2 47.5、高 3 53.7）

（2）重点項目への取り組みと自己評価

重点項目についてはおおむね数値目標を達成することができた。企業就労希望者の内定率は 100%だが、福祉就労が施設と家庭との関連で 100%に至らなかった。本人への指導と家庭との連携を一層深めていきたい。体罰については教育環境の改善から取り組み、挨拶・言葉遣い・身なりなど教員がモデルとなりその改善に努めるよう図ったが、保護者、外部委員から一部の教員に対する言葉遣いなどの指摘がされている。今後の取り組みを徹底したい。

ア 学習指導

新様式の個別指導計画の基本業務手順の改善と活用

小学部から高等部まで順調に 100%導入が進んだ。

イ 生活指導

学習・生活指導と連動する支援会議・発達相談の実施

○支援会議（コーディネータ面談）実施 小学部 1 年生 67%・中学部 1 年生 42%

○生徒指導面 年間 30 件以下 21 件実施（高等部）

- ・児童生徒のけがの教育委員会への報告数 10件 21件の減少
- ・ヒヤリハット集を集約し共有 5月と1月に実施

ウ 進路指導

- 企業就労希望者の内定率 100%
- 福祉就労希望者の内定率 95% いずれも2月17日現在
- 高等部卒業生全体に対する企業就労内定率 38.5%

エ 学校経営・組織体制

体罰・いじめ撲滅のための教員の意識向上

- 研修会の実施 年6回

- ・いじめアンケート又は面談 生徒2回 全教職員1回実施

チャレンジ雇用制度の円滑な実施

- 配置者の年度末までの勤務継続 1名が就職に結びついた

2. 次年度以降の課題と対応策

学校評価において、人権の尊重含め全般的には80%の肯定的な回答を得たが、教員の態度や言葉遣いに対する指摘が複数件あった。ここは専門性の向上とともに経営の重点として来年度も徹底していく。安全対策では、救急搬送される事例が続き、来年度は救急救命法講習会の受講などを計画的に進めていく。卒業後含めた生活の充実に向けて、スポーツ活動・文化的活動などの自己表現活動の充実を、キャリア教育・職業教育と並ぶ教育の柱とする。また、本校児童生徒に限らず、広く障害者の体育・健康・スポーツの振興に貢献する学校にする。社会貢献活動として地域の方々との交流を深め、生徒の自己有用感を高めるとともに障害者の理解推進を図る。今後のインクルーシブ教育システムの構築の推進に向けて、高等学校を含めたセンター校としての機能を強化していく。そして、学校組織としては、役割と責任を明確にした学校経営を目指す。今年度浮かび上がった施設環境面での課題（大雨による冠水、児童生徒数増加による教室不足、同じ理由による給食調理対応、サギ飛来による安全・衛生配慮）は、教育委員会と連携をしながら改善を図っていく。来年度は、学校評価の保護者回収率を、ぜひ7割以上を目標としたい。